

分会情報

J R 東海労大阪第一車両所分会
No.627 2009.3.21
発行責任者 小林 國博
編集責任者 教 宣 部

会社は早急に組織改正の詳細を明らかにせよ！！

一昨年11月に会社は、今年7月に新幹線の車両所体制において組織の専門性を高めた検修体制により更なる検修精度と車質の向上を目指すとして東京地区、大阪地区の車両所の組織改正を行うことを提示しました。

私たち大阪第一車両所においては、仕業車両所と修繕車両所の2つに分かれようとしています。しかし、後3ヶ月あまりとなった現在においても会社は具体的なことは一切明らかにせず、社員間でウワサだけが先行しているというのが現状です。そのため、多くの社員の間で何故車両所を2つに分ける必要があるのか、車両所が分かれことで作業面等で多くの問題が発生するのではないか、自分はどうなるのか、等々の疑問や不安の声が上がっています。

例えば、○申告作業はどちらの車両所が受け持つのか？○現在は仕業検査で発生した修繕作業が時間の関係で修繕班まわしになることもあります。車両所が分かれた場合どうなるのか？○ATC関係はどちらになるのか、そしてATC関係がない方の車両所でATC関係の作業が発生した場合にどうするのか？等々分からないことだらけです。

大一両分会は、これらの疑問や社員の不安などを解明するため、また組織改正による混乱を避ける意味からも組織改正の具体的な内容を社員に明らかにするように会社に対して労使協議の場の設定を申し入れましたが、未だに協議は行われていません。

会社の組織改正を理由にした組織破壊を許すな！！

会社は、組織改正について一切を明らかにしようとしないうちにかかわらず、一方で組織改正の準備としか思えないパート異動を実施しています。それは、ここ2ヶ月これまでと違った感じのパート異動があり、仕業班から修繕班に異動した社員に夜勤がほとんどなく、そのため申告対応のためとウワサされていたりします。

これらのパート異動は、単なる車両所改正のためのパート異動と思われがちですが、仕業・修繕班間で異動した社員のほとんどが東海労組合員という事実が、会社の労務管理のためであって、東海労大一両分会の組織破壊を狙ったものだと考えなければなりません。

会社が組織改正やパート異動を組織破壊に利用することは、組合差別した転勤やサービス班配属を行ってきた過去が証明しています。会社は、組織改正を利用して意図的な社員配属を実施して「もの言えない職場」作りのための支配体制を築こうとしています。

所長や会社幹部は、総点呼等で7月の組織改正の成功に向け社員一丸となって頑張るように訓示しますが、改正内容を明らかにせずに頑張れだけでは「何を頑張るのだ」という感想も社員間には多くあります。

東海労大一両分会は、組織改正を利用した組織破壊を許さず、これらの現場社員の疑問や不安の声を大切にして、社員と電車の安全を守れる働きやすい職場を目指して労使協議に向け取り組みます。